たいせつ圏域ラウンドテーブル

岩田 聡

仕事柄，転勤がついてまわるので，札幌市，江別市，根室市，厚岸町，苫小牧市，北見市，旭川市でこれまで暮らしてきました。旭川市は，人口33万人，道内第2の都市というだけあって暮らしやすいまちです。しかしほかのところは不便かというと，ライフスタイルにもよりますけれど，旭川と大きな差はないかなというのも実感です。冬の雪が多い，少ない，夏に暑い，湿気が多いなどといった気候や，地域でどんな人に出会ったかということが，そのまちの印象を左右する気もします。

2022年1月に，旭川市とその周辺の鷹栖町，東神楽町，当麻町，比布町，愛別町，上川町，東川町，美瑛町の１市8町では，将来の少子高齢化社会を見すえ，圏域として連携して取り組む協約を調印し，大雪圏域構想を打ち出しました。

大雪圏域の特徴の一つである森林や木材を活かし，「持続可能」「脱炭素」「地域ブランディング」をキーワードに、研究機関からもアプローチができないかということで，北方建築総合研究所（北総研）と林産試験場（林産試）の2つの研究機関が，1市8町，北海道林産技術普及協会、旭川家具工業協同組合などと「たいせつ圏域における木の利活用に向けたラウンドテーブル」を設置しました。

第1回の会議は昨年3月に開催し，北総研、林産試から話題を提供，1市8町の森林や木材，木材を利用した建築，家具などについて現況報告をしました。

第2回は昨年11月に，今度は森林や木材に関連した勉強会という趣旨で開催しました。北海道森林管理局の佐藤さんから森林をめぐる全般について，そして平田さんから「お山ん画」で森の広報活動をしていること，建築士の桝田さんから木材を使った建築で地域が変わること，デザイナーの伊藤さんから建築に地域の木材を利用する苦労など話題提供をいただきました。（**写真１**）

写真1　北総研の西澤所長あいさつ

年があけて2月に開催した第3回目の会議では，前回のレビューをしながら，林産試から木材がどのように流通しているのか情報提供し，再び1市8町を交えて意見交換をしました。（**写真２**）

森林や木材に関連して，1市8町の関心はそれぞれです。森林資源が多いところもあれば，少ないところもある。資源はあっても伐る人材がいない，地域材を利用したいけれど地元に製材工場がないということがあります。工場のない地域では，地元で伐採された丸太を建築用の部材にするため，いったん圏外の工場に製造をお願いしなければなりません。また，中高層の建築となると，構造や防火の観点から鉄骨が主体とならざるを得ず，木材は内装が主体となることもあります。そして内装や家具に地域材を使おうとすると，使える広葉樹資源が少ないという課題にぶつかるのです。

写真2　1市8町から現状，課題などを報告，意見交換

先日，圏域の一つである当麻町の町産カラマツを使った役場庁舎を見学させていただきました。町産のカラマツを使って庁舎建設に施工するまでには苦労があったようです。庁舎内をよくみると，打合せテーブルなどの調度品は旭川家具，内装のパネルは隣町の工場で生産したものなど圏域内の地域が連携することで整備されたものもありました。地域として自立を目指しているけれど，連携することも必要なようです。1市8町と北総研，林産試という研究機関がラウンドテーブルを通じて関係を維持しながら，時間はかかると思いますが，圏域を特徴づける創造的なことを生み出していきたいと考えます。

（林産試験場長）